

幼児理解への一歩をどう踏み出すか

～プレ体験を通じた中学生の振り返りの構造化～

藤井 志保^{*1}・堤 健人^{*2}・長谷 和久^{*3}・川崎 徳子^{*4}・星野 裕之^{*1}・森永 八江^{*1}・
西尾幸一郎^{*5}・張替 咲子^{*6}・徳光 慧^{*6}・尾川 真子^{*7}

First Steps toward Understanding Young Children:
Structuring Junior High School Students' Reflection through Pre-Experiences

FUJII Shiho^{*1}, TSUTSUMI Kento^{*2}, NAGAYA Kazuhisa^{*3}, KAWASAKI Tokuko^{*4}, HOSHINO Hiroshi^{*1},
MORINAGA Yae^{*1}, NISHIO Koichiro^{*5}, HARIKAE Sakiko^{*6}, TOKUMITSU Satoshi^{*6}, OGAWA Mako^{*7}

(Received March 21, 2025)

キーワード：幼児とのふれあい、プレ体験、中学校技術・家庭科

はじめに

かつてない急激な社会の変化の中で、学校教育においてどのように子どもたちの学びをデザインする必要があるのだろうか。2021年の中教審答申の令和の日本型学校教育においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が打ち出された。奈須（2023）は、「両者に共通するのは、子どもたち自身による自立的な学びの推進であり、適切な環境なり状況と出会いさえすれば、自ら進んで学ぼうとするし、学ぶことができる」と述べ、子どもたちが自ら学ぶためには、環境設定を含む学びのデザインの重要性を指摘している。また、「協働的な学び」とは、多様な「個」の間でこそ生じる互恵的な学びであると述べている。さらに、ファデルら（2016）も、これからは「多様な文化の人々と協働し、異なるものの見方や考え方、価値観を理解することが求められる」と述べ、異なる価値観を持つ個が協働し、相互理解を深めることの重要性に言及している。以上のことから、学校教育においては、教師が子どもたちの学びの枠組みやデザインをどう創造するかが重要であり、異なる価値観を持つ多様な子ども同士が互恵的に関わり合いながら、自ら課題を解決していく学びの姿が求められていると考えられる。

学校教育では、協働的に関わり合いながら課題を解決する授業デザインに関する報告が多くなされている。例えば、中山（2016）は、SSH理数科での協働的な学びにおいて、課題解決の3段階のステップの導入が問題解決力の育成に有効であることを示している。松本・松山（2013）は、中学校における職場体験学習において、入念な事前学習を含むカリキュラムを提案している。柏崎（2014）は、大学生の介護体験のための主体的な事前学習を開発、体系化し、介護体験前の不安が軽減したことを報告している。

奈須（2023）が指摘する「多様な個の間で生じる協働的で、互恵的な学び」を効果的に取り入れる方法の一つとして、異年齢交流が挙げられる。その一例として、中学校技術・家庭科の家庭分野（以下、家庭科）の幼児とのふれあい体験学習がある。幼児とのふれあい体験学習は、家庭科のA領域『家族・家庭生活』に関する題材である。平成29年告示の中学校学習指導要領解説技術・家庭編では、急激な少子高齢化の進展に対応して、幼児とのふれあい体験を一層重視することが、学習内容の充実として強調された。

*1 山口大学教育学部家政教育選修 *2 山口大学教育学部技術教育選修 *3 山口大学教育学部心理学選修
*4 山口大学教育学部幼児教育コース *5 山口大学教育学部小学校総合選修 *6 山口大学教育学部附属山口中学校
*7 山口大学教育学附属幼稚園

1. 家庭科における授業デザインや幼児とのふれあい体験学習の先行研究の検討

幼児とのふれあい体験に関する知見は、数多く蓄積されており、その効果も認められている。例えば、岡野・伊藤・倉持・金田（2012）は中学生に対する影響を、叶内・倉持（2019）は乳幼児の保護者の視点からその意義を明らかにしている。さらに、倉持（2016）は、『保育ふれあい体験を中心とした家庭科カリキュラム・イノベーションガイドブック』を提案し、ふれあい体験のデザインと題材のストーリーを確立している。また、叶内（2019）は、これまでの知見を基にふれ合い体験事例集を作成した。この事例集では、事前・事後学習を含む授業全体のデザインが豊富な具体例とともに示されている。さらに、河村（2018）は、主体的な学びの実践における教育的効果を検討し、課題解決型や問題解決型の学習として、子どもが仮説を立てて、課題を見つけるといった実践が多く、それらが対話的かつ協働的な学びと密接に関連していることを明らかにした。また、佐藤・石引（2023）は、家庭科の実践的・体験的学習を再考し、授業設計に関する6つの視点を提示している。特に、「目標は与えられるものではなく、子ども自身が作り出すこと」が重要であり、教師はその支援をすべきだと指摘する。また、子どもが「新しい思考のステージに立ち上がる」ために、実践的・体験的活動のデザインが必要だとしている。では、幼児とのふれあい体験において、佐藤らの視点を踏まえ、子どもたちが主体的に学ぶためにはどのような学びをデザインすればよいのだろうか。

2. プレふれあい体験を導入した本研究における授業デザイン

先行研究からも、中学生が幼児とのふれあい体験で課題解決型の学習を行うには、課題設定が重要だと考えられる。叶内（2019）作成の体験事例集によると、安全で充実した体験のために「幼児の手本になる」「衛生・安全に配慮する」「困ったときは教員へ連絡する」こと、幼稚園教諭には「中学生は不安や緊張を抱えている」と伝えることなどが挙げられている。家庭科の教科書では「出会いの声かけを学ぶ」「遊びを考える」などの取り組みが示されている。しかしながら、中学生が実際にどの程度活用できるのかは不明である。出会いの場面では予期せぬ状況が発生し、幼児も想定外の行動をとる可能性がある。教科書の指導がそのまま機能するとは限らず、中学生がどのような不安を抱え、何を課題と認識するのかを明らかにする必要がある。奈須（2023）が述べる「適切な環境なり状況」との出会いを設定するためには、教師が子どもたちの状況を丁寧に見取ることが出発点ではなかろうか。その出発点として、本研究では、本番の幼児とのふれあい体験前に、中学生自身が幼児とのふれあいに対する課題意識を明らかにすることを目的とするプレふれあい体験（以下、プレ体験）を導入する題材を構想した。中谷（2016）は、保育体験における効果を明らかにするために55件という多くの文献レビューを行い、詳細な検討を行っているがその中に、プレ体験についての言及はなかった。また、ふれあい体験の回数が1～2回それ以上の報告もあるが、継続が困難であるという状態でとどまっている。このように、プレ体験を導入している事例は少ない。多くの中学生はふれあい体験に緊張して臨み、慣れてきたころに体験が終了し、「もっとこうすればよかった」と考えながら体験を終えるが、それを試す機会は二度とない。もし課題を再度試せる機会がある授業デザインを導入すれば、中学生は主体的にふれあい体験に取り組むのではないだろうか。

3. 研究目的と方法

子どもたちが互恵的に関わり、課題を見つけ解決する環境を作るため、本番前にプレ体験を設けた。ランチミーティングで出会い、プレ体験は幼児の好きな遊びや特徴を知る時間とし、本番では技術分野の授業で作ったデジタルおもちゃを使ってふれあった。本研究では、プレ体験において中学生がどのような課題意識を持ったのかを明らかにすることを目的とする。さらに、結果をもとにふれあい体験学習のデザインについて示唆を得ることを目指す。プレ体験後の中学生の自由記述を、共同研究者とともにKJ法（川喜田1997）で分析し、佐藤（2008）の質的データ分析法を参考にまとめた。そして、その成果、課題、目標の関係性を図にまとめ構造化した。その図解を基に、共同研究者と今後の授業デザインについて話し合いを行った。

4. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトの構成員とその役割を表1に示す。教育学部の教員が協働して研究を総括するとともに、授業の支援を行った。中学校では、技術科と家庭科教諭が連携しながら授業デザインを考案するとともに、幼稚園教諭とも連携し、体験前の打ち合わせを行い、事後も子どもたちの変容を話し合い、情報共有した。

表1 本プロジェクトの構成員とその役割

所属	構成員（役割）
教育学部（家政教育選修）	藤井志保（研究総括、指導計画立案、家庭科の教材開発の支援、分析と考察）
教育学部（技術教育選修）	堤健人（指導計画立案、技術科の教材開発の支援、分析と考察）
教育学部（心理学選修）	長谷和久（指導計画立案、授業実践の分析と考察）
教育学部（幼児教育コース）	川崎徳子（保育実践の分析と考察）
教育学部（家政教育選修）	星野裕之（家庭科の授業実践の分析と考察）
教育学部（家政教育選修）	森永八江（家庭科の授業実践の分析と考察）
教育学部（小学校総合選修）	西尾幸一郎（家庭科の授業実践の分析と考察）
附属中学校（家庭科）	張替咲子・白井志保（指導計画立案、家庭科教材開発、授業実践）
附属中学校（技術科）	徳光慧（指導計画立案、技術科教材開発、授業実践）
附属幼稚園（研究主任）	尾川真子（指導計画立案、保育実践）

4-1 指導計画の検討

本プロジェクトは、昨年度から継続して実施している。これまでに、中学生と幼児の双方向の関わりに着目して、中学生側からの分析と幼児側（幼稚園教諭のコメントなど）からの分析を行った。その結果、幼稚園教諭からの中学生へのアドバイスが、中学生の行動に影響を与えていたことが明らかになった。また、中学校でのふれあい体験後の事後の授業研究なども実施した。今年度は、課題設定のためのプレ体験に焦点を当てて取り組むこととした。次に題材全体の指導計画を示す。

4-2 プレ体験を導入した指導計画

表2は、幼児とのふれあい体験における事前・事後学習と、技術分野の学習との関連を示したものである。家庭科では、中学生に幼児とのふれあい体験があることを伝え、幼児の発達や生活、遊びについて学ばせる。その後、地域の乳幼児や保護者、保健師との交流を重ね、本番を見据えたプレ体験を導入した。技術分野では、幼児向けのおもちゃを製作し、幼児理解と関連付けることで学びを深める授業デザインとした。

表2 プレ体験を導入した技術・家庭科の指導計画

家庭分野の学習目標（時数）	関連する技術分野の主な学習活動（時数）
幼児についての学習の全体像を知り、自分の幼いころを振り返るとともに、幼児についてのイメージを交流し、課題を設定する。(1)	
幼児の心身の発達の特徴や幼児の一日の生活について理解を深め、幼児との関わりについての目標を持つ。(2)	
幼児にとっての遊びの意義について学び、幼児に適した遊びやおもちゃについて調べ、意見交流を行う。ランチミーティングに向けて、グループごとに活動計画を立てる。(1)	
ランチミーティングを通して、幼児と出会い、自己紹介などのコミュニケーションをとり、幼児との関わり方を工夫する。(1)	
ランチミーティングを振り返り、ふれあい体験学習に向けたグループごとの交流計画を企画し、検討する。(2)	コンピュータの構成や仕組み、デジタル情報の処理についての知識を習得する。 micro:bit のプログラミングを通して、構造化プログラミングについて理解し、問題解決に必要なプログラミングの基礎的な技能を習得する。(3)
夏休みの課題：幼いころの遊びの調査（自分の記憶や家族への聞き取りをもとに幼いころに熱中していた遊びについて調べる）（時間外）	夏休みの課題：幼児に適したおもちゃのアイデアを考え、その機能を実現するためのプログラミングを行う。（時間外）
夏休みの遊びの調査を元に、グループワークを行い、発達年齢による遊びの変化や、幼児が遊びを通して身に付ける力について理解を深める。(1)	夏休み課題で考えてきたアイデアの共有を通して、作成するおもちゃの仕様を考える。(1)
地域の乳幼児とその保護者、保健師との交流を通して、幼児の身体の発達、言語、認知、情緒、社会性等の発達、遊びの意義について体験的に理解する。幼児について自分の課題を持つ。(赤ちゃん人形による乳児のおむつ替え、抱き方の体験)(1)	市販の幼児向けおもちゃを調査し、安全や機能についてどのような工夫がなされているのかを考える。おもちゃの試作を行う。(2)
プレ体験において、計画に基づいてグループごとに幼児とふれあい、幼児の興味があるものや好きな遊びについて理解を深める。【プレ体験 10月 16・18日】(2)	
プレ体験および、幼稚園の先生方からのアドバイスをもとに、本番のふれあい体験に向けた遊びや関わり方の工夫について、グループで検討を行う。(2)	おもちゃの仕様を決定し、設計書にまとめる。設計をもとにおもちゃの筐体とプログラムを作成する。(4)
これまでの知識や体験を生かし、中学生同士も協力しながら、幼児の個性や興味関心に応じた関わりを工夫することができる。【ふれあい体験本番 12月 10・13日】(2)	
1年間の幼児とのふれあいを通して学んだことを振り返り、成果や課題をまとめ、今後の改善案を考える。(1)	ふれあい体験での幼児の様子を振り返り、問題解決の結果と過程を評価し、改善案を考える。(1)

5. データ収集の方法と分析方法

5-1 実施時期と対象者

プレ体験は、2024年10月に実施した。対象は、山口大学教育学部附属山口中学校の3年生A・B・C・D組計138名である。ふれあいの対象となる幼児は、山口大学教育学部附属幼稚園の花組（年少児）13名、風組（年中児）23名、星組1（年長児）16名、星組2（年長児）16名、計68名である。

5-2 データ収集の方法

プレ体験後、以下の内容について自由記述を実施した。記述時間はおよそ20分間である。

- 1) プレ体験において、自分自身の関わりで良かった点は何ですか。
- 2) プレ体験を通じて、自分が課題と考えたことや疑問に思ったことは何ですか。
- 3) 本番では、どのように幼児と関わっていきたいと考えていますか。

5-3 分析方法

中学生の自由記述について、以下の手順で分析を行った。

- 1) 単位化：プレ体験に基づく記述内容を、一つの命題に言及している文（節・句）ごとに区分した。
- 2) カテゴリー化：意味内容が共通または類似しているものをまとめ、カテゴリー名を付与した。
- 3) 上位カテゴリーの抽出：各カテゴリー同士を比較し、意味内容が類似するものを統合し、より包括的な上位カテゴリーを設定した。

この分析は、5-2の1) 2) 3) の問い合わせごとにそれぞれ実施した。

6. 結果

6-1 技術科のプレ体験に関連する授業実践

技術科では情報の技術の内容における統合的な問題解決学習の一環として、幼児を対象とするmicro:bitを組み込んだデジタルおもちゃの製作を題材に設定した。生徒はプレ体験に向けた事前学習として、グループごとに子どもの対象年齢に応じたおもちゃの形や色の工夫や安全性への配慮、興味を引く工夫などを調査した。その内容を元におもちゃの試作を行い、開発するデジタルおもちゃの機能や構造を検討した。

プレ体験における生徒の目標は、対象となる幼児の興味関心や行動の特徴に焦点を当て、丁寧に聞き取りを行うこととした。プレ体験後は、得られた情報を整理し、開発中のおもちゃが幼児に適しているかを再検討し、ふれあい体験本番に向けて修正を加えた。中学生は「予想以上に（対象幼児の）動きが激しく、このままでは壊れるかもしれない」「（対象幼児は）まだすらすら文字を読むことが難しいので、LEDで表示する文字をハートや顔などの絵文字にしたほうがよいだろう」と修正点を具体的に見出した。また、「（対象幼児は）車が好きなので、信号機を作つてあげてより楽しめるようにしよう」と追加機能のアイデアも生まれ、幼児の特性に応じた改良が行われた。

6-2 家庭科のプレ体験に関連する授業実践

家庭科では、幼児の心身の発達や遊びの意義を理解し、それを踏まえたおもちゃ製作を通じて、幼児との関わり方を工夫することを目標とした。乳幼児の生活や遊びについて学ぶ中で、自らの幼少期の思い出を共有する姿も見られた。中学生たちは、自分たちが夢中になった遊びを挙げ、それらを分類し、どのような発達が促されるかを考察した。出会いのランチミーティングでは、対象となる幼児の興味を聞き取り、それを考慮したおもちゃや遊びをグループで検討した。しかし、遊びの好みは多様で、選択を絞ることは容易ではなかった。プレ保育では、ランチミーティングで十分に把握できなかった幼児の興味や遊びの好みを、できるだけ多く収集することを目標とした。また、幼稚園教諭の助言を生かし、すべての幼児が楽しめるよう配慮し、多様な発達を促す観点から、技術科の教材であるデジタルおもちゃに加え、それ以外のおもちゃも用意した。さらに、幼児の動きに応じてグループの枠にとらわれず、一人ひとりの遊びに寄り添う姿勢を持つて本番に臨むことができた。

6-3 幼稚園における保育実践

幼稚園では、“中学生に親しみをもって関わる”というねらいで交流を行っている。事前にペアグループの幼児と中学生でお互いの写真を交換し合った。また、その後ランチ会があったことで、幼児はプレ体験で中学生と関わることを楽しみにしていた。昨年度はプレ体験で、すでに考案したデジタルおもちゃを通して幼児と関わり、中学生がおもちゃをどう改善するかを考えた。しかし今年度は、先に幼児について理解し、その後デジタルおもちゃを考案する流れであった。よって、幼児の好きな遊びや特徴を理解しようと中学生が幼児の遊びや思いにより寄り添っていた。そこで、幼児は自分の好きな遊び（普段している遊び）をお兄さんお姉さんたちと“一緒にしたい”“見せたい”という思いをもち、自ら声をかけたり遊びに誘ったりしていた。このように、昨年度とは違って幼児の中学生に対するかかわりが受け身ではなく、積極的に中学生と関わるプレ体験となった。

6-4 自由記述からみたプレ体験

結果は、表3・4・5に示す通りである。表3の成果は、11個のカテゴリー、表4の課題は、13個のカテゴリー、表5の目標は、6個のカテゴリーが抽出された。この最終的なカテゴリーの関係性について図解し、中学生のプレ体験における課題意識を明らかにした。

6-4-1 幼児との関わり方で良かった点（成果）

表3に示すように、11の上位カテゴリーを抽出することができた。一番目に多かったのは、「遊びの提案と工夫（20.1%）」であり、幼児を尊重しながら状況に合わせて、中学生から遊びの内容や方法を提案していく。二番目に多かったのは、「視線とコミュニケーションの工夫（14.8%）」と「言葉を通した関係構築（14.1%）」である。三番目として、「幼児中心の振る舞い（12.8%）」を挙げることができた。この振る舞いとは、幼児の行動に対して「オーバーリアクションで対応したこと」や、幼児が闇いごっこを仕掛けてきたときに、わざとやられた「真似やふり、演技などをして関わったこと」を挙げていた。そのように振る舞うことで、幼児が笑顔になり楽しんでくれるつまり、相手の立場になって行動しようとしていたことが読み取れた。

6-4-2 幼児との関わり方で感じた課題や疑問点（課題）

表4に示すように、13の上位カテゴリーを抽出することができた。一番目に多かったのは、「緊張して、初めの話しかけ方が分からぬのでもっと上手にしたい」そして、「何を話してよいかその内容が分からず、また会話も続かず盛り上がりがなかった」など、「コミュニケーションの壁（16.4%）」を感じた中学生が多かったことである。二番目に多かったのは、「乱暴な行動や喧嘩、ふざけなどに対しての注意の仕方や対応の仕方が難しい」「落ち着かない幼児、好奇心旺盛、マイペースな幼児への対応」というように、幼児側の「乱暴、喧嘩、ふざけ等への対応（13.3%）」に戸惑い、困った場面があったことである。三番目として、「幼児の内面の理解（12.5%）」をしようと努力した中学生が多かった。「幼児の性格や情緒、好きな遊びや遊び方など内面まで理解できないため、どのように対応して良いか分からぬ」という不安な声があった。続いて、「遊びのアイデア不足を感じた、「複数の幼児への同時対応」が難しい」という内容であった。

6-4-3 本番では幼児とどのように関わっていきたいか（目標設定）

表5に示すように、6の上位カテゴリーを抽出することができた。一番多かったのは、「幼児の興味と個性に応じた遊びの設計と関わり（22.4%）」であった。続けて、「遊びの楽しさを引き出す工夫（21.1%）」が多く、特にそのグループの幼児「全員が楽しめる遊びの工夫」を考慮したいという声が多かった。続いて「信頼関係の構築と安心感の提供（19.0%）」「幼児を尊重したリアクションと共感的コミュニケーションの促進（15.6%）」「積極的なサポートとフィードバック（10.9%）」というように、幼児との信頼関係のために、積極的に相手の立場になって関わる行動を目標として掲げた中学生が多かった。そして、一人でいる幼児や消極的な幼児のことも意識して、幼児が安心して安全に遊ぶことができるよう「安全とインクルーシブな環境の構築（11.6%）」をめざそうとした目標設定があったことは成果であると考えられる。

6-4-4 プレ体験の自己評価における成果・課題・目標の関係性

図1は、プレ体験の自由記述から抽出した上位カテゴリーの関係を構造化したものである。それぞれ「○

成果」「■課題」「◎目標」と記号を付し、5点に分けて述べる。【】で示す言葉は、図1におけるカテゴリーである。

1点目は、中学生の25.8%が【■乱暴・けんか対応】【■健康と安全への不安】【■消極的な幼児への関わり】を課題とし、安心・安全が基盤であると認識していた。その中で、少數ではあるが、消極的で一人になりがちな幼児への対応を課題としてあげている中学生もいた。よって、図の下部に、【ふれあい体験において基盤となる安心・安全】を中学生の課題意識として位置づけた。

2点目として、【○尊重と受容】【○賞賛と承認】など幼児を温かく受け入れる姿勢や【○視線とコミュニケーションの工夫】などの成果が見られた。一方で、中学生が幼児のことを考え、意図的に負けたふりをして演じ、我慢しながら関わる【幼児中心の振る舞い(12.8%)】を意識していることも明らかになった。

その一方で、3点目として【■コミュニケーションの壁(16.4%)】【■幼児の言葉の理解の難しさ(10.9%)】をはじめ8項目のカテゴリーをまとめて【■中学生が気付いた幼児の言葉や様子から内面を理解することの難しさ(62.6%)】という課題とした。中学生は幼児の内面を理解しようと試みたが、幼児に気を遣われているというように、幼児の様子を敏感に感じ取り、それを【■幼児との距離感(1.6%)】として感じた中学生もいた。また、自分が幼児から逃げてしまったなど【■苦手感情のコントロール(5.5%)】の必要性を感じ、【■幼児との関わりにおける主体性(5.5%)】が必要であることを課題として見出していた。

4点目として、技術科との関連である。中学生は、幼児の遊ぶ姿に寄り添うことはできても、新たな【■遊びのアイデア不足(8.6%)】と【■幼児に適したおもちゃを考案する難しさ(3.2%)】を感じていた。このことから本番に向けての目標を、【◎遊びの楽しさを引き出す工夫(21.1%)】が必要であると設定している中学生が多くかった。

5点目として、片付けが苦手な幼児に対して方法を示し見守るなど、【○生活習慣の習得の支援(1.3%)】となる関わりができたという声もあった。また、【○幼児同士の関係性の構築(0.7%)】を視野に入れて、幼児に関わろうとした声もあった。これらは【○本番で増やしたいより高次な幼児への関わり方(2.0%)】であり、【◎幼児の興味と個性に応じた遊びの設計と関わり(22.7%)】という目標につながると考えられる。

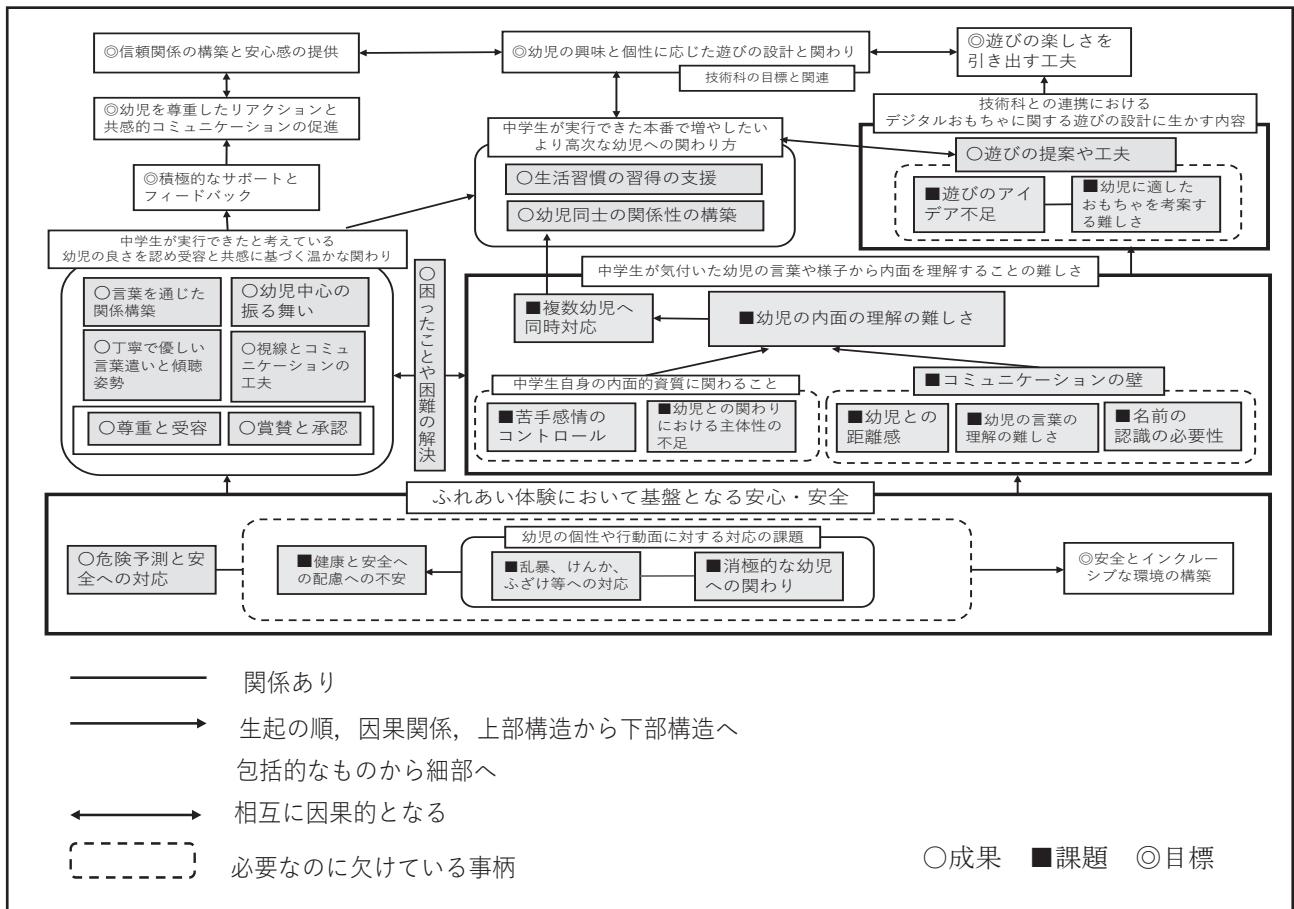


図1 プレ体験の自己評価における成果・課題・目標の関係性

表3 幼児との関わり方で良かった点（成果）（元ラベル149）

上位 カテゴリー	カテゴリー（記述数）	具体的な記述例	回答記述数 (比率%)
遊びの提案や工夫	幼児の様子に合わせ遊びを提案し、工夫したこと（21）	寝つ転がるなど暇そうな時に、こちらから遊びの提案をすることができた。 自分から積極的にさそったりタッチしたりできたことです。幼児のしたいことを自分から聞いて提案して遊べたことです。 幼児がここにないものがあって遊べないんだと言っていたのに対してじゃあどうしたら遊べるかなお兄ちゃん一緒に遊びたいなど言って幼児の意見を大切にして一緒に考えながら制作した点。 折り紙とかごっこ遊びにても一緒にやるようにして、その中でも選べるようにして考えさせたこと。	30 (20.1%)
	幼児の主体性を尊重して一緒に遊んだこと（9）	幼児がダンスするに対して自分も一緒にダンスをしつつつながれた点。 手をつないでずっと付いて行ったこと。 折り紙をしている時に、幼児のペースに合わせてできた。	
視線とコミュニケーションの工夫	幼児と目線を合わせること（5）	目線を合わせた。 なるべく低い姿勢を保つことができました。	22 (14.8%)
	幼児と目線を合わせて会話をしたこと（7）	行動に対して低い姿勢で話しかけた。 幼児の目線に常に合わせて会話することができた。	
	目線を合わせ、笑顔や言葉などを工夫したこと（10）	幼児が怖がらないようにしゃがんで目線を合わせた。楽しめるようたくさん話しかけた。 幼児が一生懸命話してくれる時に目線を合わせて、笑顔で聞くことができた。	
言葉を通じた関係構築	話しかけ質問できたこと（6）	幼児に質問しそれに対して答えてもらうこと。 幼児の遊んでいる時に少し話しかけることができたと思うので良かったです。	21 (14.1%)
	幼児の様子に応じて工夫して話しかけ、相手を理解しようとしたこと（15）	幼児が図鑑を見てるときに色々聞いてみたら嬉しそうに答えてくれたので良かった。 たくさん質問して何がしたいかや何をして欲しいかなどしっかりと確認して行動できた。 聞き取れない時はごまかさずにもう一度聞いた。 ずっと話しながら歩いていたので、色々な話を通して、その子のことをもっと知るが pudoました。 問い合わせてくる場面が多かったので「そうだね」など分る反応をしました。「何して遊んでるの？」と聞いていました。	
幼児中心の振る舞い	オーバーリアクションで対応したこと（6）	感情表現は伝わりやすいよう、言葉にし、オーバーなくらい反応しました。 幼児のごっこ遊びの時に、大げさなアクションをとって楽しむことができた。 幼児の行動に対してオーバーなリアクションをするととても喜んでいたので良かった。	19 (12.8%)
	真似やふり、演技などをして関わったこと（8）	やられた振り。銃で撃たれる。 幼児が攻撃のつもりをやったら自分は迫真の演技で返した幼児はどう思つたか分からないけど。 ブロックのコマで勝負するときに私が負けてあげたり幼児がしたいといったものが出来ました。 幼児が剣で差してきた時に自分は場の雰囲気に応じて倒れるまねや苦しむ真似ができた。 ○○くんがさそりでさしてくるので、何度も殺される役をした。	
	幼児に合わせるために自分が我慢して対応したこと（5）	幼児の無茶ぶりに耐えた。 幼児の少し分かりにくい説明に対して、質問などをして流さずに根気強く聞けた点。 押し倒されても我慢したこと。 幼児が叫んだのに対して自分を優しくなだめた。	
尊重と受容	幼児の話や行動を肯定的に受けとめたこと（4）	幼児の言ったことを全て肯定して受け止めた。	13 (8.7%)
	幼児のしたいことを尊重して関わったこと（9）	幼児が言うことに対してあいづちをしたり上手に返すことができた。 幼児がやっていることに手出しがせず聞かれたら少し手助け。 なるべく私が手を出さないようにできました。（いろいろすることに対して）	
賞賛と承認	良い面を見つけて、褒めたこと（12）	ほめてあげたりできたなるべくすべてを肯定してあげれた。 幼児と会話をする際肯定し、笑顔で褒めることを意識した。 幼児と折り紙で遊んで出来上がったものを褒めることができた。 2人が逆上がりや前回りができたらたくさん褒めてあげた。 幼児の自分の世界観で遊ぶことに対して自分は「すごい」と声かけをした。	12 (8.1%)
危険予測と安全への対応	安全への配慮のために工夫したこと（5）	補助して安全に遊べるように助けてあげることができました。 アスレチックなどの危険な場所は手をつないだりして怪我をするのを防いだ。	12 (8.1%)
	危険な状況の時注意したり声をかけたこと（7）	硬いものを振り回している時優しく注意することができた。 幼児の危ない行動に対して肯定的な対応をして注意することができた。 幼児に頼まれて割り箸をはさみで切る時割り箸が飛んで目に入ると危険なので声かけをしたこと。 幼児が高いところに登ろうとした時に、危ないからやめようと注意をした。	
丁寧で優しい言葉遣いと傾聴姿勢	乱暴な言葉を使わず、優しい言葉で話したこと（6）	乱暴な言葉を使わない。 言葉遣いには気をつけて、優しい言葉を使い、変な言葉を覚えてしまわないようにした。	9 (6.0%)
	聞き役になり、話を理解して、話を広げるようにしたこと（3）	たくさん話す子だから聞き役に徹するのが前よりできた。 早口だから文節で聞き分けるなど工夫をして、相手の話を理解できた。	
困ったことや困難の解決	困っている様子を見て助けようと動いたこと（2）	幼児が工作をしているときにどうしたらいいか困っていたときに、口で教えるのではなく一緒に「こうしたらいいいんだよ」と手を動かしながら伝えれた。	8 (5.4%)
	けんかの解決のために動いたこと（2）	泣いている幼児を慰めながら、先生の方へ行こうと促した。	
	消極的な幼児のことを気にかけたこと（2）	取り合ひにならじやんけんしようと言った。 喧嘩をする園児の仲裁をすることができた。	
	思いが強かったり、ふざける幼児への関わり方を工夫したこと（2）	ボールを投げない子にボールを渡してみんなが楽しめるように工夫した。 自分がボールを持った時に、あまり投げていない人に渡すことができた。 鉄棒していくて部屋に帰る時なかなか帰らなかつた時あと何回したら帰ろうといったこと。 幼児がくつ袋をとってきたときに自分はお兄ちゃんそれないと泣いちやうと言ってかえしてもらおうとした。でも冷蔵庫で冷やすと言っていたので冷やして返してもらったこと。	
生活習慣の習得の支援	片付けができるように寄り添ったこと（2）	片付けの時全部自分たちでやるのはなくあえてやらせてあげたことで片付けを身につけさせることができ少しできたのではないかと思います。 片付け苦手な幼児と一緒に片付けをした。	2 (1.3%)
幼児同士の関係性の構築	複数の幼児に関わり橋渡しができたこと（1）	最初は幼児2人に対して一人で対応していたのでどちらかに偏ることもなく接したいと思ったのが実現出来たと思う。2人それぞれの性格を考えて2人で遊べるように橋渡しをする言葉をかけた。	1 (0.7%)

表4 幼児との関わり方で感じた課題や疑問点（課題）（元ラベル128）

上位の カテゴリ一	カテゴリ一（記述数）	サブカテゴリ一（記述数）	具体的な記述例	記述回答数 (比率%)
コミュニケーションの壁 (会話の難しさ)	そもそも話ができなかったので話をしたい（4）	異性の幼児と話せなかつた（3）	担当の女の子と遊ぶ。女の子と話すようにしたい。 女の子との触れ合いが少なかつたこと。 男の子の○○○君とあまりコミュニケーションができなかつた。	
		幼児に相手をしてほしい（1）	ちゃんと相手してもらうと。	
	緊張して、初めの話しかけ方が分からないので、もっと上手にしたい（9）	緊張して思うように話せない（2）	最初に幼児に話しかけるときに少し緊張してしまう。 相手に応じてうまくしゃべれなかつた。	21 (16.4%)
		初めの接し方が分からない（7）	もっと最初のコミュニケーションを取る。 話しやすくするための雰囲気が必要。接し方がわからない。 最初の接し方をもっと上手にしたい。最初の空気感。	
		何を話してもいいかその内容が分からず、また会話も続かず盛り上がらない（8）	会話のネタや内容がない（3） 会話が続かず盛り上がらなかつた（5）	
	乱暴、けんか、ふざけ等への対応	乱暴な行動や喧嘩、ふざけなどに対する注意の仕方や対応の仕方が難しい（14）	乱暴な行動に対してどのように注意したらいか（4）	○○君が少し乱暴になっていたので止められたら良かった。 少し暴力的な流れになった時、どうやって断ち切るか。 幼児が叫いてきた時の対応はどうすればよいか。
			幼児の喧嘩やふざけへの対応が分からない（5）	すぐにほかの子と喧嘩になってしまった。（ボール等の取り合い）。 幼児同士で物の取り合いや順番抜きが発生した時にどう対処するか。 ○○○ちゃんがお互いにやりたいことがあって少し喧嘩になってしまったことがありました が、自分たちで解決できていたのでは次は助けてあげたいです。
			良くないことをしている場面でどのように注意するといいか分からない（3）	あまり良いことをしているときしっかり注意することができなかつた。 葉っぱでぐらされた時に「先生に言う」と言ったら本気でビビッていたので良くない。
			注意するときの加減が分からない（2）	下ネタを発見している幼児にどう反応していいのかわからなかつた。 子供を注意するときの言い方。
			落ち着かない幼児、好奇心旺盛、マイペースな幼児への対応（3）	幼児にどこまで注意したといいかわからない。怒ったら少し可哀想だと思うし、注意しなかつたらだめであることをやめない。
	幼児の内面的理解	幼児の性格や情緒、好きな遊びや遊び方など内面まで理解できないため、どのように対応して良いか分からない（12）	幼児の世界観、ルール、性格、情緒など 幼児の内面が理解できない（4）	○○くんをどのように落ち着かせるか。 やりたいことがコロコロ変わつていて行くのが大変だった。 マイペースで集まつたりしないといけなくともなかなか集まろうねと言えなかつた。
			幼児の好きな遊びについてどのように工夫して接したらよい（8）	幼児の内面の理解。 好きなことが一つつかわらなかつた。詳しい性格までは分からなかつた。 人形の名前がころころ変わつたりしてその子の世界観を理解することができなかつた。 急に大声で笑ひ出したり急に静かになつたりと情緒がよくわからなかつた。
			幼児の好きなものが分からぬいでの知りたい（4）	もっと幼児のしたいことをくみ取ることです。幼児も楽しめる話題を見つけることです。 幼児の好きなものについて詳しく知らなかつた。幼児はあまり集団で遊ばないのかな。 どのようにして色々なことに興味を持つたりするのかな。(はたらぐ細胞など) 前はおまごとをよくやつたけど、今回は工作、どちらの興味に合わせて作ればいいか。 手伝おうしたら毎回大夫と言われる。(どうしたらよいのだろう)。
		幼児の言葉の理解の難しさ	幼児が何を言っているのか理解できない（4）	幼児たちの好きなキャラクターを全然知らない。 幼児が何が好きなのか分からなかつた。
			幼児との会話において何度も聞き返したり、対応が上手くいかない（6）	幼児が言っていることが時々理解できない。 何を言っているのか聞き取らずそのまま流してしまつた。 話の内容が理解できないことがあつた。何で返していいのか分からぬい時があつた。 どのレベルの言葉まで伝わるのかがわからなかつたこと。 聞き取れない時はもう一度聞かれて返した方が良いのか。 ずっと同じ場所で遊んでいた。話していることに何度も聞き返してしまつた。 時々言葉が聞き取れないことがあり、聞き返して同じ事を話させてしまつた。 何回か聴き返してしまつ。どういふや対応をすべきかわからぬい時がある。 いきなりこの絵かいてと言われたときの対応。
健康と安全への不安	遊びのアイデア不足	幼児の健康面などへの配慮や不安がある（2）	話し方に気を付ける（1）	～ができる？と聞かれた時、どう言ったほうがいいのか。 何歳と聞かれた時、15歳といったら48歳と言つたので発音に気をつけたい。
		安全を確保するために、幼児の危険な行動に対してどのように対応すればよいか分からない（9）	幼児の健康面などへの配慮や不安がある（2）	幼児の体調面を気をつける。 子供疲れさせるのはいいことなのか。
		幼児を見失った（2）	幼児がどこにいるのか見失った（2）	何したら楽しくもう少しいう案はあるが幼児に危険が及ぼないか心配になる。 ブロックを口に入れたり投げたり危ないなと思った時に伝えられなかつた。 幼児は自分たちが危ないなどをよくわかっていないのでそこが課題。 幼児が廊下を走りまわっているときにちゃんと注意できなかつた褒めるのは簡単だったけど注意するのは意外と難しかつた。
複数の幼児への同時対応	幼児との関わりにおける主体性の不足	遊びのアイデアがもっと必要でありどのように遊びを認識して関わればよいか分からない（11）	遊び方が分からず、遊びのアイディアが必要だと感じた（5）	鬼ごっこ時の、目を離してしまい一緒に遊んだ○○君もどこに居るのか分からなくなつてしまつた。
		同時に複数の幼児に話しかけられた場合や他の幼児のことを考えた場合にどのように対応したらよい（8）	遊び道具との関係が分からぬい（1） 時間配分が上手くいかない（1） 見守るしかできなかつた（2）	遊びに上手く入れなかつた。お話をできるけど、積み木などは見て、「手伝って」とか「そっちやって」って言われるまで何をしたいかが分らなかつた。 折り紙のパリエーションが増えたら良かったと思いました。 みんなで遊ぶ遊び（おにこっこ）ができなかつた。 バレーボールの時にボールをさわる人とそうじやない人がいたのでなんとかしたい。 みんなで遊ぶ遊び（おにこっこ）ができなかつた。 バーベットをどう認識するかバーベットプラス自分のかバーベットを持っている自分なのか。 時間配分がうまくいかなくて、最初にやろうといったことができなかつた。 絵を書いている時に話しかけているのが見えていた。
		幼児を見失った（2）	2人の幼児に同時に頬みことをされた時にどうすればいいのだろうか。 一時にいろんな幼児から話をかけられた時の対応が追いつかない。	8 (6.3%)
苦手感情のコントロール	名前の認識の必要性	目線を合わせて積極的に話しかけたほうが良かった（7）	積極的に話しかける（4） 目線を合わせたほうが良かった（3）	幼児が一度に喋った時に誰の話を聞けばいいのかわからぬい。 他の子に話しかけられた時に他の子が転んでいた。
		苦手意識を態度に出してしまつた、視線を下げる下に見られるという感情を持ってしまう（7）	イライラしたり、苦手意識で幼児を避けてしまう（4）	積極的に話しかけることができ、やってほしいと思われていることができなかつた。 積極的に話しかけることができなかつたうしたら幼児と楽しんで会話ができるか。 また、幼児の目線に合わせることで質問などもう少ししたらいいと思った。
		お互いに名前を覚えたい（5）	ふれあう時に苦手なことがあり表情に出てしまつた（2） 幼児に下を見られてしまうという感情を持つてしまう（1）	どうしてもはじめは幼児のことを苦手だと思っててしまうこと。少しほらました。 抱つこしてと言わせて、「できないんだー」と答えた。幼児から追いかけられた時逃げた。 幼児がどう思っているかをあまり考えていない。幼児に対して距離をとり嫌がつてゐる。 虫を手に乗せてくれたときにその幼虫を見て苦い顔してしまつた。 私が虫が好きじゃないから、会話するのが難しかつた。
幼児への適したおもちゃや考察する難しさ	消極的な幼児への関わり	幼児一人一人に適したマイクロピットのおもちゃとはどんなおもちゃだらうか（4）	中学生の役割分担やそれぞれの幼児に適した対応が必要である（1） マイクロピットの遊びについて（3）	視線を下げ過ぎて子供に下に見られてしまう。
		消極的な幼児への接したらよいか分からない（3）	消極的な幼児への接し方が分からぬい（3）	誰がどこをどのように担当するのか決める。どうやつたら4人の興味がある共通なものを見つけられるか。体で一度も関わなかつた子はどうするのか。
幼児との距離感	幼児が自分に気を遣つており、もっと幼児の気持ちを汲み取り親しくしたい（2）	幼児が自分に気を遣つており、もっと幼児の気持ちを汲み取り親しくしたい（2）	マイクロピットを使った遊びを考えるのが難しい。 みんなが楽しめるおもちゃとはどんなおもちゃだらうか。 人見知りの子にどう接したら良いいのかわからなかつた。 私がいると少し気を遣わせていると感じることがあつた。幼児の気持ちをくみ取りそれを促すような行動も少しあつたほうがいいかもしない。	4 (3.2%)
		幼児のほうがこちらに気を遣つており、もっと幼児の気持ちを汲み取り親しくしたい（2）	距離をつかめなかつた距離を詰めたらもっと親しくできたのかな。気を使われている感。	3 (2.3%)

表5 本番では幼児とどのように関わっていきたいか（目標）（元ラベル147）

上位カテゴリー	カテゴリー（記述数）	具体的な記述例	具体的な記述例（比率%）
幼児の興味と個性に応じた遊びの設計と関わり	幼児の好きなことを尊重する（14）	幼児が好きなものややりたいことをして楽しませる。 良さこれからは幼児としっかりコミュニケーションをとりながら子どもの特徴や好きなこと自分なりのルールを覚えるながらできるだけその子のやりたいことをさせてあげるように努力したい。 自分は幼児が話しかけるまで積極的に関わることが出来ていない。次回は幼児が何をしたいかを考えながらもしくは事前にどんな事を話したいか考え常に会話をあるよう準備観察を頑張りたい。 その配慮ができていたのだからあとはどのようにすれば幼児を楽しませることができるかどうしたら長い間楽しんでもらえるのかを考えてラストの保育に向けて頑張っていきたい。	
		僕が幼児と近い距離で壁なく接したい、幼児にやりたいことを聞いて参加するような形だったけど次は自分たちでおもちゃを作って遊んでもらうでの興味を持つてもらえるような工夫をしたい。	33 (22.4%)
	個別のニーズに合わせた遊びの提案（19）	子供たちが楽しく遊べるのはもちろんですが、その遊びを通して、何か一つでも興味の持てるもの、ルール、学びそして発見を見つけることができる遊び、おもちゃ、関わり方をしきたいです。しっかり考えてグループで試行錯誤しながらいいおもちゃやゲームを作りたいです。 信号機が好きな子がいるのでそれにちなんだおもちゃを作つて持って行くのもいい。どうにかして園児と関わるようにして行きたい。音やボタン、光を使うものを作つて持って行きたい。	
		今日は前回よりもたくさん遊べて、さらに積極的に話たりすることができたという良い点もあったけど、幼児のことをまだよく分かっていないところもあったので本番までに今までの反省を生かして、マイクロピットを使って喜んでもらえるような遊びを作つていこうと思いました。	
	興味を引きだす準備や工夫（4）	幼児が苦手なのでどんなことをやつたら幼児が樂しいかや喜ぶかを考えておきたい。 私は虫が苦手だから、できるだけ物作りとか運動系とかの方が嬉しいけど、それだと相手の子が楽しめないから次回までに虫について調べて詳しくなっておく。	
		ブランケットが好きな子たちなので事前にいろいろ調べておきたい。	31 (21.1%)
	遊びのルールの説明とコミュニケーションの工夫（7）	本場のマイクロピットを使ったおもちゃで遊ぶ時は幼児の意見を聞きつつ自分のアイデアを伝えたいと考えているそして自分のアイデアを伝えるときは丁寧に話すようにしたいと思う。 幼児の動きに合わせて、動くけれど本番は私たちが仕切って遊んでもらうので、ルールとかの説明や扱い方を幼児にわかりやすく、そして興味を持ってもらえるものを作りたいと思いました。	
		幼児がわからなくなるのを防ぐためにできるだけシンプルで簡単な説明を心がけたいです。一番最初に話し始めるのはほとんどが僕なのでわかりやすくしたい。	
	全員が楽しめる遊びの工夫（17）	プレ保育をどうして幼児の好きなことなどを詳しく知ることができました。ひとりだけでなくみんなが楽しめるような遊びを考えたい。	
		僕は様々なことに気を配るのが得意なので幼児がひとりで遊びがそうだったら隣で見守ったり幼児同士で喧嘩が起きないように言葉遣いに気付け、誰もが楽しい時間を過ごせるようにしたい。 僕はコミュニケーション力が高いと思うのでこれからはもっといろいろな幼児などとかかわり幼児のことを理解して本番では自分が全部できるようならいまで行きたいです。	
	楽しさと盛り上げの工夫（3）	1人1人、班の中でも全然タイプが違うから、班のメンバーと情報共有して、それぞれの好きなこと苦手なことを知つておきたい。その上で、特にペアの子とは、今日たくさん知れた分、もっと笑顔にできたらと思う。班員は子供得意な子が多いから、もっと聞いてかかわり方を変えていきたい。	
		自分はみんなを楽しむためにおもしろいことをやってみたり盛り上げることをしていきたいなと思う。 幼児が関わりやすい雰囲気を作る努力をしてみようと思う。 痛がる役だけでなく、反撃していく役も加えて、レポートリーを増やしたい。	
信頼関係の構築と安心感の提供	優しさと配慮 目標を合わせたコミュニケーション（13）	幼児目標を合わせて柔らかい言葉で話すことを心がけたいです。 きちんとしゃがんで目を合わせて話したいです。他には、コミュニケーションをとるのが比較的得意なので、班のメンバーの子みんなとお話しして、きちんと優しい対応がとれるようにしたいです。 幼児が一生懸命に話してくれるることをちゃんと聞けるようにしていき、幼児と同じ目線で遊べるようにしたい。 目標線を幼児の高さに合わせて優しい言葉で話しかけて、幼児と同じ話題で盛り上がっていい友達になりたい。	
		幼児に対して優しい気持ちで向き合い常に笑顔でいたいです。 笑顔で幼児に不安を与えないようにしたい人と話すことに集中してしまうので周りも時々見て臨機応変に活動したい。遊びに対して楽しく取り組んでいる姿を見せたい。	28 (19.0%)
	笑顔と優しさで安心感を与える（14）	自分は他人よりは鉄道に詳しいので鉄オタの〇〇君の機嫌を取つてください。自分は人形みたいに優しいのでみんなの人気者になります。 自分は幼児と触れ合う時は明るく笑顔ですることができますのでたくさんのこと楽しく元気に関わっていきました。 幼児が安心して遊ぶことができるよう、自分自身の表情にも気を付けていきたいと思う。今回の反省点をしっかりと生かしていきたいです	
		名前の認識（1）	
	幼児との共感的な関わり（13）	良さ名前を覚えてもらいたい。今回の内容がリセットにならないように次回名前呼びをしてもらえて充実した時間にできるようにしたい。	
幼児を尊重したアクションと共感的コミュニケーションの促進	幼児との共感的な関わり（13）	自分は工作が好きなほうなので、工作をするってなったら、一緒にやりたいし、外で遊ぶってなったら、全力で遊びたいなと思いました。 幼児のベースに合わせて意見を聞きながら遊ぶ。幼児の話を聞きながら遊びたいと思った。どんなことが好きかや何をしたいかを、よく感じ取って幼児に楽しんでもらえるようにしたい。	
		自分たちが考えた遊びと一緒にやろうとは思うが、すべてそのままやるのではなく、幼児たちの反応を見て、対応していきたいと思いました。 自分が小さい頃、よくごっこ遊びをしていたので、もの（ぬいぐるみとか）を通じて会話をしていけたらいいなと思います。幼児と喋ると緊張するので同じくらいのデモンションでいきたいなと思います。	23 (15.6%)
	うなづきや共感（5）	リアクションを大きくとった子供たちが嬉しそうにしていたので、私の得意な相手のしてほしいことを読み取るというのを本番では積極的に頑張つていいたいなと思います。	
		幼児が発した言葉に対してたくさんアクションしてあげて盛り上げていけるようにしたい。 幼児の発言よく聞き、粘り強く会話を続けていきたいです。	
	丁寧な聴き方と反応（5）	今回のプレ保育では幼児に対して丁寧に話すことができたし、逆に幼児の話をよく聞くことができたので本番でもそれを続けていきたい。	
安全とインクルーシブな環境の構築	インクルーシブな遊びの支援（5）	また〇〇君が少し人見知りなので気にかけてあげたいです。 あまり場に馴染めていない子とかに、積極的に話しかけて、ちゃんと遊びに加わるようにしたいです。 孤立している園児がいたら遊びに入れるに誘導して行きたいと思う。	
		一人だけ違う遊びをしている子や一人ぼっちになっている幼児に話しかけてみんなで遊べるように関わっていきたいです。	17 (11.6%)
	安全確保と危機管理（12）	他の人にぶつかっている幼児がいたから廊下では歩くように呼びかける。 幼児の安全にも気を配りながら関わっていきたいなと思います。	
積極的なサポートとフィードバック	褒めることの重要性 ポジティブなフィードバック（14）	安全に配慮して活動することができるよう、喧嘩の止め方や、明るく話す方法などを調べたい。 幼児の安全を第一に考えて、危ないことをしようとしていたら注意・やめるように言って、幼児の安全を守る。幼児と触れ合いたくさん話したい。	
		たくさんほめたり積極的に声をかけたりして幼児全員が楽しいと思えるような本場にできたらいいかなと思いました。 幼児が緊張しないように、馴れ馴れしく喋って、最後に泣いてもらえるくらい楽しく過ごしたい。 そのためにもっとたくさんのことを知つて実践できるようにします。	
	タイミングよくサポートとアドバイス（2）	見てみてと得意なことを見せてきて、すごいねと褒めてあげるとすごくよろこんでいた。幼児が頑張つてしまことやダメなことをやめたりした時に、しっかり褒めてあげることが大切だと思った。 幼児が工夫して遊べたときや人にやさしくできた時に、その子の名前を呼んで具体的に良かったところを褒めてあげたい。 自分はほめたりできるので、その子独自の世界を理解して、一緒に遊んでいきたい。	16 (10.9%)
		話しかけた時にしっかり話してくれたので、話しやすい雰囲気はある程度あるのではないかと思った。表情を読むことができ、いいタイミングで遊びを提案できたので、本番で幼児がわからない、難しいような表情や雰囲気があれば話しかけて、アドバイスしたりサポートしたりしたい。	

7. 総合考察

本研究では、幼児とのふれあい体験にプレ体験を導入し、その意義を中学生の自己評価に基づく成果・課題・目標を図解し構造化することで、明らかにした。さらに、その結果をもとに、今後のふれあい体験学習のデザインについて示唆を得ることを目指した。総合考察として、図解（図1）をもとに共同研究者で話し合った内容を述べる。中学校教員からは以下のような意見があった。「ふれあいにおいて傍観者になっている生徒がいることは認識していたが、イライラし、我慢するなどの苦手感情を抱いていたことは意外」「幼児の言葉を理解しにくいことへの対応は、幼稚園の先生からのアドバイスが効果的」「中学生が遊びのバリエーションを持っていないことに対して、中学生に遊びを捉えさせることが難しかった」「幼児期に育みたい10の姿を知らせたい」「園だよりを紹介したい」などである。一方、幼稚園教員からは、「中学生は予想以上に課題意識をもっている」「子どもの姿を予想して、課題解決に向かおうと考えられていることが素晴らしい」「中学生が、幼児自身のことを理解したいという思いが伝わった」「幼児自身のねらい（親しみを持つ）を達成するために、年長児が中学校へ散歩に行くなど、中学生を知る機会を設けたい」との意見が寄せられた。

図解をもとに話し合うことで、観察だけでは気付けなかった中学生の課題意識を把握できた。また、プレ体験の全体像から、中学生はふれあい体験において、安心・安全とインクルーシブな環境の構築を意識し、幼児の良さを認め、受容と共感に基づく関わり方をしていたことも明らかになった。その一方で、6割以上の中学生が幼児の言葉や内面を理解することの難しさを感じ、戸惑いや困惑、不安を抱えていることも分かった。さらに、本番に向けた目標として、幼児と関わる際には積極的なサポートを行い、幼児を尊重した共感的なコミュニケーションを意識するようになった。これらのこととは、指導者側の想像以上の成果であった。

よって、プレ体験後に、中学生同士の振り返りの時間を十分にとり、成果と課題を相互に交流することで、中学生同士で課題解決できるのではないだろうか。つまり、教師には、中学生がプレ保育での成果や課題について率直に意見を交わし合える場をどのように設けるかが求められる。幼児と関わる経験が少なく、不安を抱える中学生にとって、同級生が実際に行動した良かった点を聞くことは、本番に向けた見通しを持つ上で有効である。これは、教師の説明や教科書の注意書きだけでは得られない学びであろう。

おわりに

本研究を通じて、幼児とのふれあい体験におけるプレ体験が、中学生にとって課題を発見し、主体的な学びへとつなげる機会となる可能性を見出した。また、指導者である教師が、交流の場を設定するなど、授業デザインを工夫する必要性も明らかになった。さらに、技術科教員・家庭科教員・幼稚園教員の連携が重要であることも示唆された。今後の課題としては、プレ体験の効果を本番のふれあい体験へどのように結びつけるかを検討し、具体的な授業デザインのあり方を明らかにしていく必要がある。

引用文献

- C. ファデル・M. ビアリック・B. トリリング著. 岸学 監訳. 関口貴裕・細川太輔 (2016) :『21世紀の学習者と教育の4つの次元—知識、スキル、人間性、そしてメタ認知—』, p 3. 北大路書房.
- 叶内茜・倉持清美 (2019) :「乳幼児を持つ保護者からみた中学生ふれ合い体験の効果と課題：保育園保護者へのアンケート調査から」, 『保育と保健』, 25 (1), pp. 44-48.
- 叶内茜・倉持清美 (2019) :『家庭科保育学習 中学生と乳幼児のふれ合い体験事例集』, 有限会社サンプロセス.
- 柏崎秀子 (2014) :「体験活動に向けた主体的な事前学習の開発とその効果－介護等体験の単位化－」, 『実践女子大学文学部紀要』, 第56巻, pp. 33-41.
- 川喜田二郎 (2020) :『続・発想法 KJ法の展開と応用』, p 89. 中公新書.
- 河村明和 (2018) :「主体的な学びの実践における教育的效果についての検討－学校種や教育領域の違いに着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』26号-1, pp. 63-69.
- 倉持清美 (2016) :『保育ふれあい体験を中心とした家庭科カリキュラム・イノベーションガイドブック』.
https://www2.u-gakugei.ac.jp/~seikatsu/pdf/contents/curriculum_innovation.pdf (2025.7.30閲覧)
- 文部科学省 (2017) :『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭編』, 開隆堂出版.

- 松本美和子・丸山剛史（2013）：「中学校特別活動における職場体験活動に関するカリキュラム開発－職場体験にさきだち職場見学を実施し、事前・事後指導を充実させて－」，『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』第36号，pp. 371-378.
- 中山玄三（2016）：「協働的な学びによる問題解決力の育成－SSH理数科での高校1年生を対象にした介入授業の事例研究－」，『日本教科教育学会誌』39(1)，pp. 59-72.
- 奈須正裕・伏木久始（2023）：『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』，p 2，北大路書房。
- 岡野雅子・伊藤葉子・倉持清美・金田利子（2012）：「中・高生の家庭科における「幼児とのふれ合い体験」を含む保育学習の効果－幼児への関心・イメージ・知識・共感的応答性の変化とその関連－」，『日本家政学会誌』63(4)，pp. 175-184.
- 佐藤郁也（2008）：『質的データ分析法－原理・方法・実践』，新曜社。
- 佐藤ゆかり・石引公美（2023）「家庭科における実践的・体験的学習再考」，『上越教育大学研究紀要』第43巻，pp. 313-321.